

## 平成29年度 磐田市魅力産業支援会議 内容及び会議録

- 1 日 時 平成29年10月5日（木） 15時00分～17時00分
- 2 場 所 磐田市役所 西庁舎3階 特別会議室
- 3 出席者 魅力産業支援会議委員 9名 事務局（商工観光課、産業政策課）10名

### 4 内 容

- (1) 開会
- (2) 委員長、副委員長の選任
- (3) 出席者紹介
- (4) 議題「磐田市産業振興計画の事業評価について」
  - ①事業評価の概要、評価方法、評価結果
  - ②評価結果の詳細
    - 基本目標1：まちなぎわいと交流を促進します！
    - 基本目標2：ものづくり産業の競争力を確保します！
    - 基本目標3：未来をひらく新たな産業を創出します！
    - 基本目標4：次代を見据えた人材育成・確保を支援します！
- (5) その他
- (6) 閉会

### 5 意見等

- (1) 「基本目標1：まちなぎわいと交流を促進します！」について
- 委 員 サーフィン全国大会が開催されたが、市内ホテルに宿泊する人は少なかった。イベントをやる際には、市が音頭を取って、宿泊、飲食、商店などに対して、初期の巻き込みが必要ではないか。
- 事務局 サーフィン業界、市のスポーツ担当課が主に進めており、当日配布のパンフレットには周辺の食事処を掲載したり、渚の交流館での「磐田PRデー」を実施し来場者も多かった。しかし、宿泊等の全体像がつかめなかったため、事前告知不足だった点もあったが、経済効果につながる事なので、今後活かしていきたい。
- 委 員 お客様ニーズを考えれば、飲食、宿泊など必要なものは何か色々出てくる。
- 委 員 宿泊事情を聞いたところ、浜松から御前崎までの範囲で安いホテルから埋まっている状況だった。事前に宿泊場所リストを渡し、サーフィン協会のホームページに掲載してもらっていたが、そこまでで終わっていた。もっと告知ができれば良かった。
- 委 員 当日の来場者数は？

- 事務局 火曜から日曜の6日間で、一番多い日で2,000人、延べ5,000人程度。
- 委員 個々の事業を話していくのは難しい。大きな目標に際して、プロジェクトのような活動ができれば、組織横断的な議論ができる。1つ1つは担当がしっかりやっても、全体では抜けができる。実施段階では、分かりやすく訴えるものが必要。
- 委員 73事業は総花的になるし、評価しきれないので、本当にやるもの1、2つに絞ってもいい。評価資料は1枚で全部分かるぐらいでいい。幹と枝と区別して見せる。
- 委員 重点施策はあるが、そのままでは分かりにくい。目玉事業を作って集中すべきという皆さんの意見である。事務局の方で今後検討していただきたい。
- 事務局 策定時にも同様の議論があった。実施段階でもその考え方で進めたい。
- 委員 まとめるときは、コーディネートやマッチングがキーワードになる。そこを意識すれば全体の流れが良くなる。
- 委員 優先度が高い事業はもっと絞って1つでもいい。73事業は全てやる必要があることだと思うので、1つずつ潰していく意識で。
- 委員 確かに事業数が多く、事務局的な立場で見れば、大変なご苦勞をされて事業を進められていると思う。
- 事務局 事業評価の資料など、次回以降、会議を進める上で参考にさせていただく。

(2) 「基本目標2：ものづくり産業の競争力を確保します！」について

- 委員 事業の見える化は大事。内容が良くても市民や企業へ見えないといけない。学生、IoT、農業セミナーのように、産業振興フェアに付随させていきたい。産業観光として、工場見学するのもあり。実績が出たものには説得力がある。来年度もテーマを絞ってフェアを開催していきたい。
- 委員 製造品出荷額等を目標にするのは再考した方がよいのではないか。
- 事務局 昨年度の計画策定時の議論の中で決まったもの。何が全体を表す指標かは難しい。
- 委員 輸送用機械器具製造業は産業構造が変わる中で、クルマ・バイク産業の事業予定はこのままで良いか？ 製造業の現場の方々から見てどうか？
- 委員 絶対無くならない産業であることは間違いないので、経営者が時代の流れを読み、方針を決めてやっていくしかない。結局は自助努力。強いて言えば、事業承継の部分は大きな課題となってくる。色々な社長と話しをしても、継がせたくないという話になる。売却、廃業、事業転換と企業それぞれが悩んでいる。企業は自分たちの技術を高く売ることができない。お金のことを言わないのが通説となっている業界だが、堂々と言うべき。人件費もとても高い。外国人派遣も込みで1,800円~2,000円出さないと集まらない。少なくとも、時間5,000円稼ぐ仕事をしないと割に合わない。付加価値を付けて売っていくことが必要。製造業は営業をやらないので、手詰まり感がある。
- 委員 輸送用機器の問題は、最難関で最大の問題。企業懇話会は、大手企業と一緒に

になって、何か考える糸口を作りたいという狙いで発足した。

委員 企業懇話会の第2回のパネルディスカッションを聞いた。大手の動向は分かるが、活かせる人はごく少数で95%は活かさないと思う。

委員 もがかないと何も出てこない。求める中で生まれる部分もある。

委員 人手不足だが、正社員の求人であっても、最低賃金ギリギリの求人が多くある。それに対して、求職者も減っており、特に20代後半～40代男性で約1～2割減。厚労省は正社員の求人をどう増やしていくかを前提にしている。正社員と臨時の賃金の差で、なかなか紹介まで踏み切れない現状がある。

委員 偽装請負はなくなってきた。派遣する事業主としては、管理を踏まえると、本人は1,200円かもしれないが、人件費は1,800円。

委員 賃金の下限が上がってこない、非正規から正規になりたいという求職者も出ない。在職中にハローワークに来る方も多くなっているが、その方が求める求人がどんな求人か、マッチングの上で一番頭を悩ませている。

委員 家庭にいる女性には就業してほしい。預かってくれる保育所がなく、フルでは働けないという話を聞く。なぜそこが全然進まないのか。保育士が集まらないという状況があると思う。

事務局 潜在的保育士の掘り起しにも力を入れているが、保育士は足りていない。園の定員枠も広めているが、その分需要も増えている。あとはマッチングの問題。街中にはいっぱいでも、その他は空いているなど。子育て環境とは切っても切れない関係。首都圏では、駅に1回集めてバスで分散させるやり方をしている例もある。

事務局 行政の視点でいえば、保育の質と規制緩和のバランス。企業内保育所のように、規制を緩め、国の支援を受けられる制度もある。情報は企業訪問の際などに届けている。保育士賃金はもともと低かったが、改善されてきている。あとは、フルタイム、パートタイムなど働き方の問題。

委員 「子育て・教育」はどの大学もトップにくる。産大学生も関心が高い。都市間、地域間連携による施策が必要になってくる。

### (3) 「基本目標3：未来をひらく新たな産業を創出します！」について

委員 産大は個店支援が得意な先生が多いと聞く。プロジェクトを作って、一緒にケーススタディとしてやっていく事例があるとよい。

委員 相談に乗れる先生方はいる。

委員 コワーキングスペースについて、詳細を伺いたい。

事務局 喫茶室から起業創業を目指す方の交流、情報交換、発信の場として整備したもの。民間設置は浜松市などにあるが、公設では県内初。レンタルボックスやオフィス機能、テラスなど。はじまりキッチンという3ヵ月お試しの飲食チャレンジブースもある。

委員 どのくらいの期間続ける予定？

事務局 可能な限り継続したいが、公共施設なので方針が変われば分からない。指定

管理の中での運営なので、そこまでは確実に継続する。

委員 上手くいかなかった場合は？

事務局 事業検証は必要だが、上手くいく方法を考えている。将来的には民間企業に参入してもらいたい。目安となるよう、改装費も1,000万円しかかけていない。そのためのノウハウを市で蓄積したい。

委員 会員登録は何人ぐらいか？

事務局 オープン時で20名程度。

(4)「基本目標4：次代を見据えた人材育成・確保を支援します！」について

委員 理工系教育機関誘致を優先事業とする理由は？

事務局 企業訪問の中で、工業高校や専門学校の市内への声は以前からある。高専へのヒアリングなど、まずは話を聞きに行っている。もがかないと出てこない。そういった姿勢で取り組んでいる。

委員 市内高校が工業科やめた理由も調べておくとよい。

委員 大学の関係では西部ネットワーク会議が存在する。住み分けはしようとなっている。

委員 今年度は1回限りの開催である。会議で出た意見は、来年度また検討していただきたい。

委員 事前に委員の皆さんの意見を吸い上げるなど、次回に向けてより良い会議になるよう工夫いただきたい。相談いただければ、できる限りの協力はしたい。

委員 来年度の予算反映の前というタイミングで今回は開催。予算反映後、進捗状況と当面の方針の話し合いで年2回程度開催でもよい。